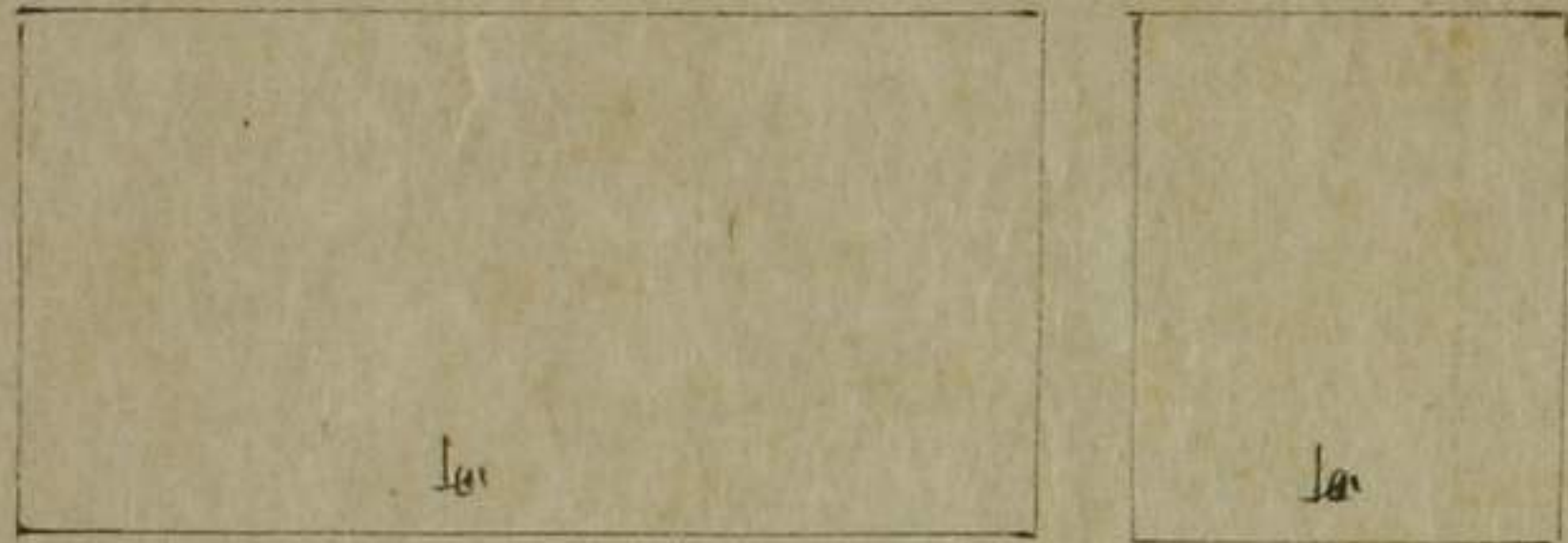


明 卷6
1228
3

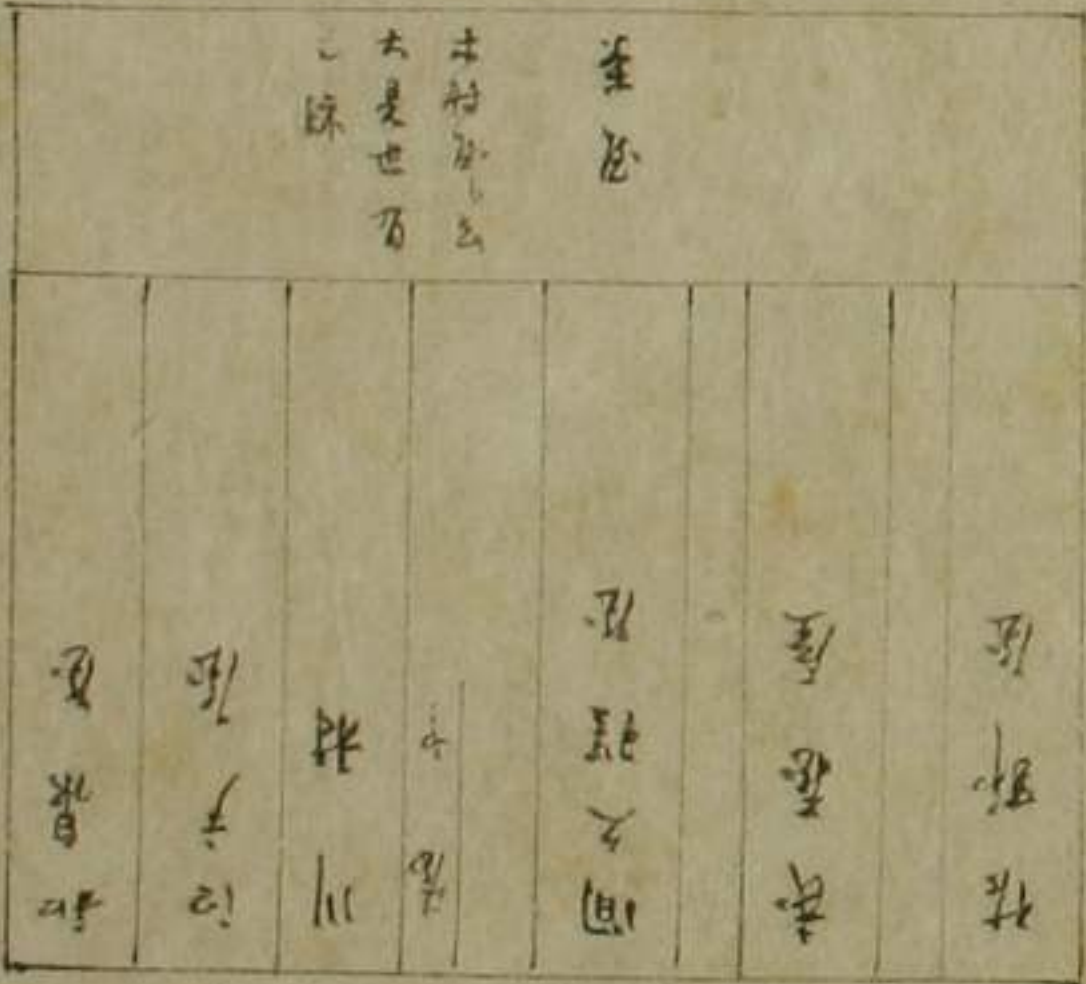


門前可地保天下水

致



此村地保



本村地保
大是世百
一保

初夏世
天保九年二月
口年九月奏

新田地

保

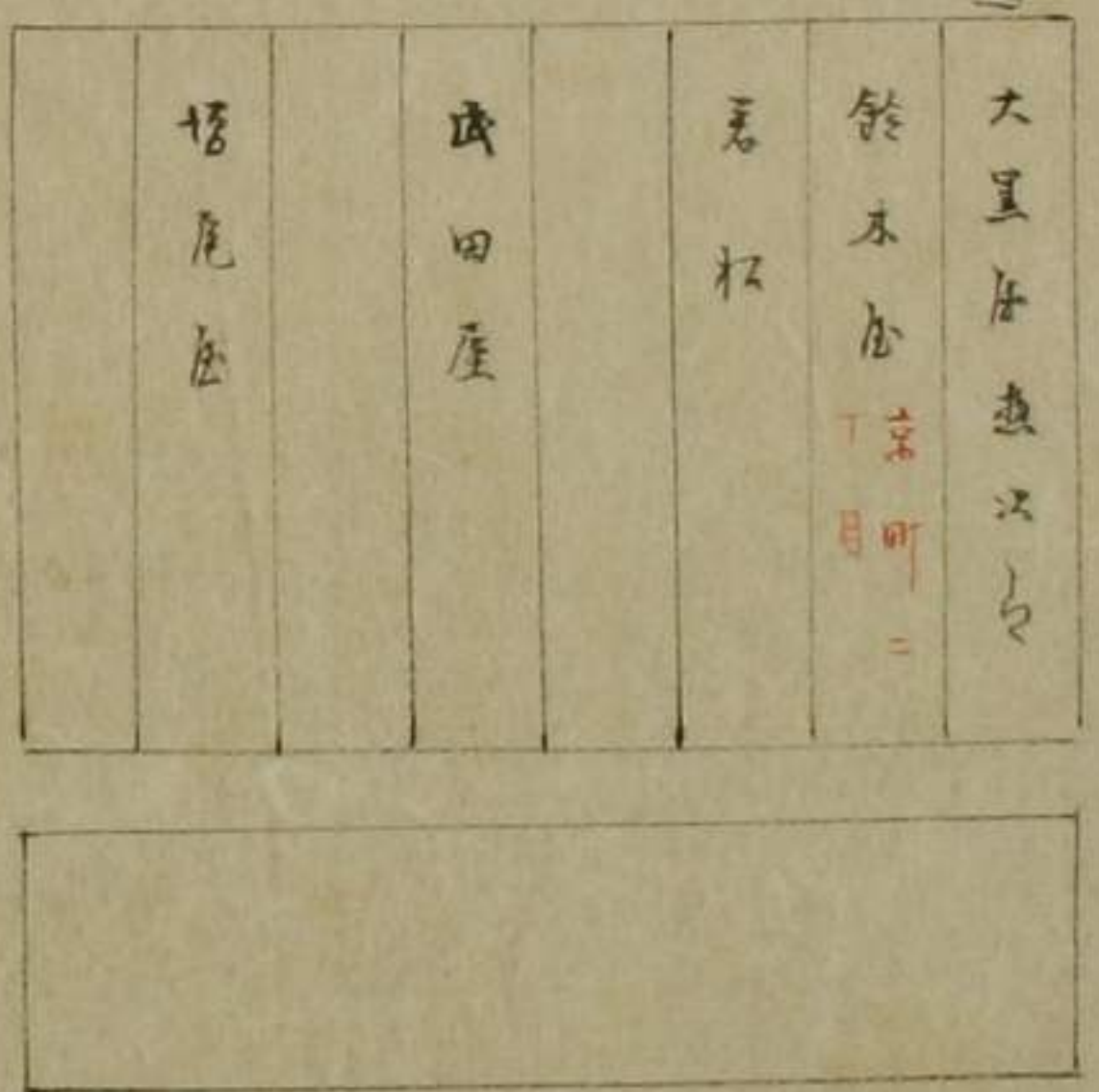
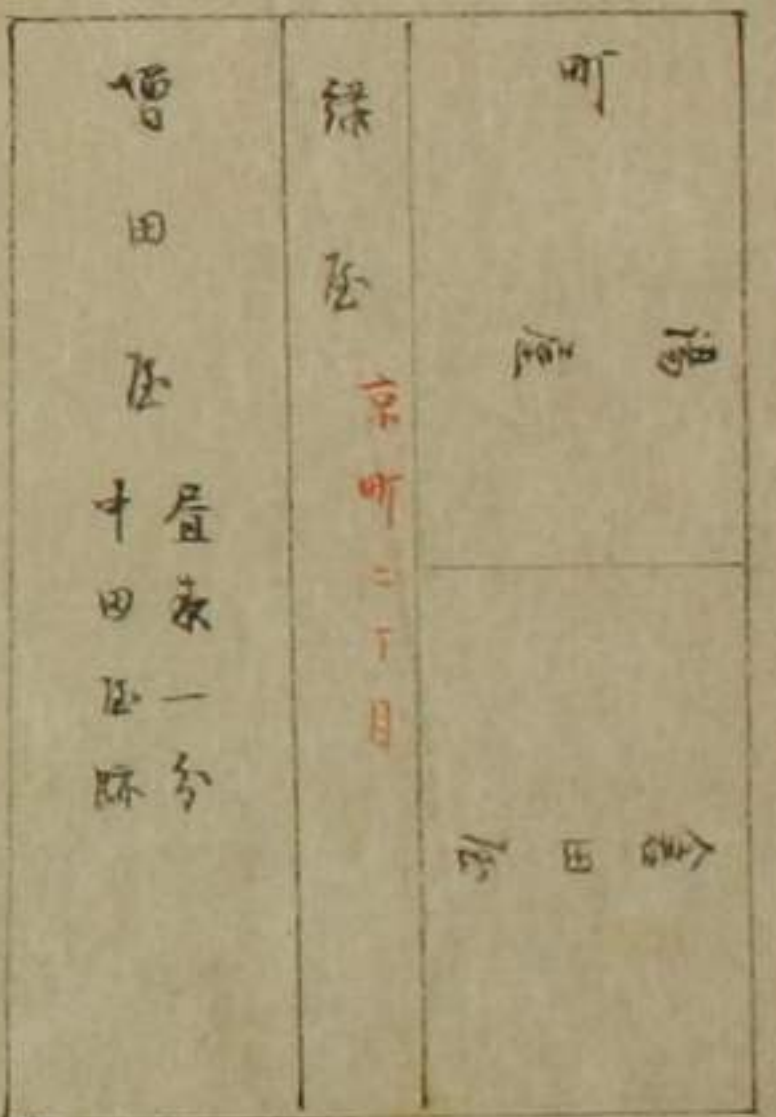
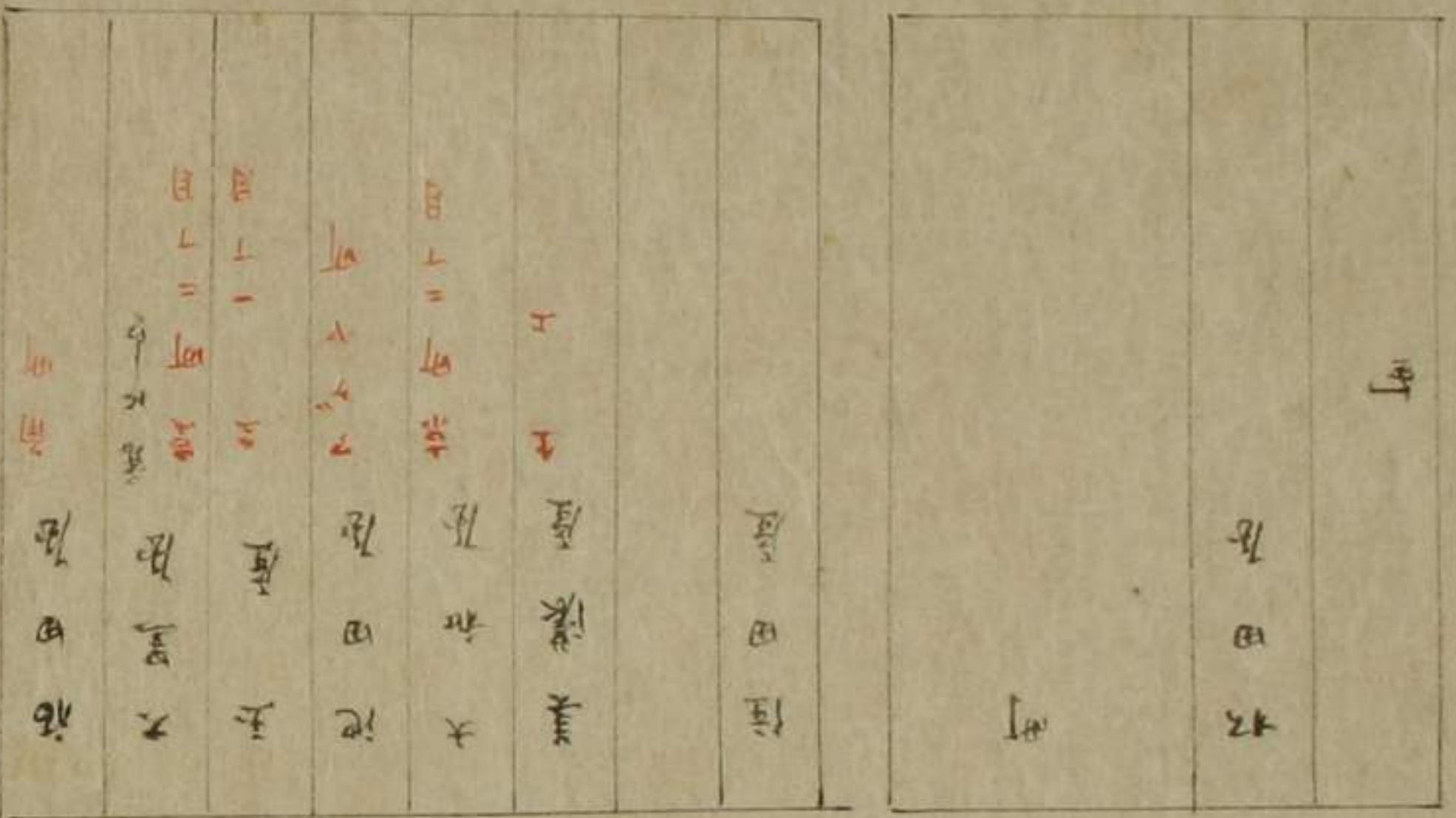
松平備後侯下郎

三
番

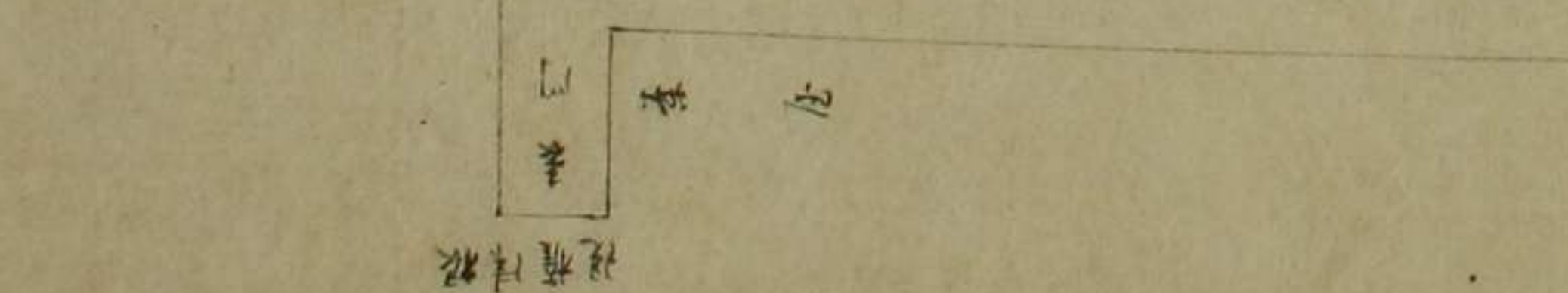
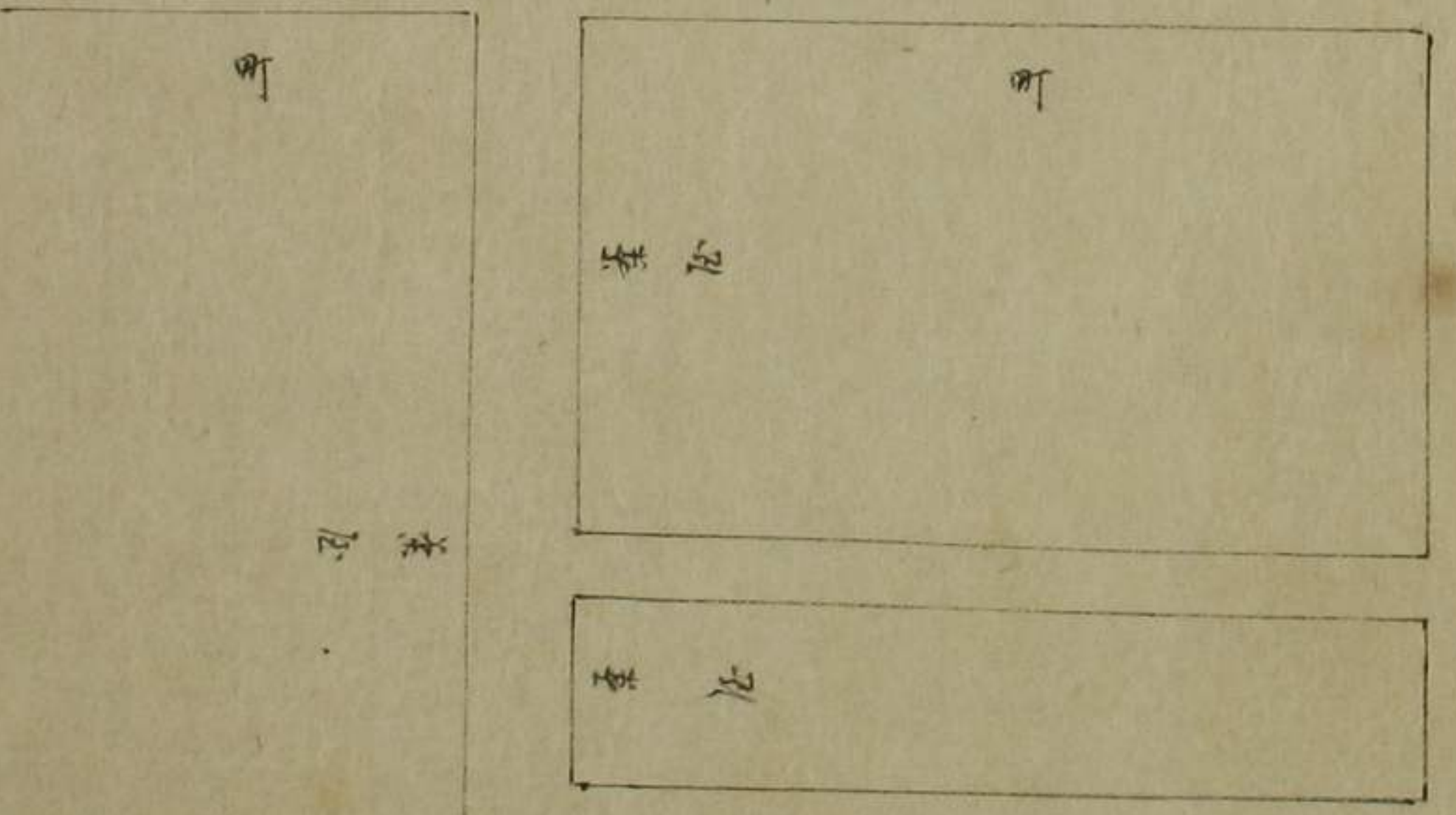
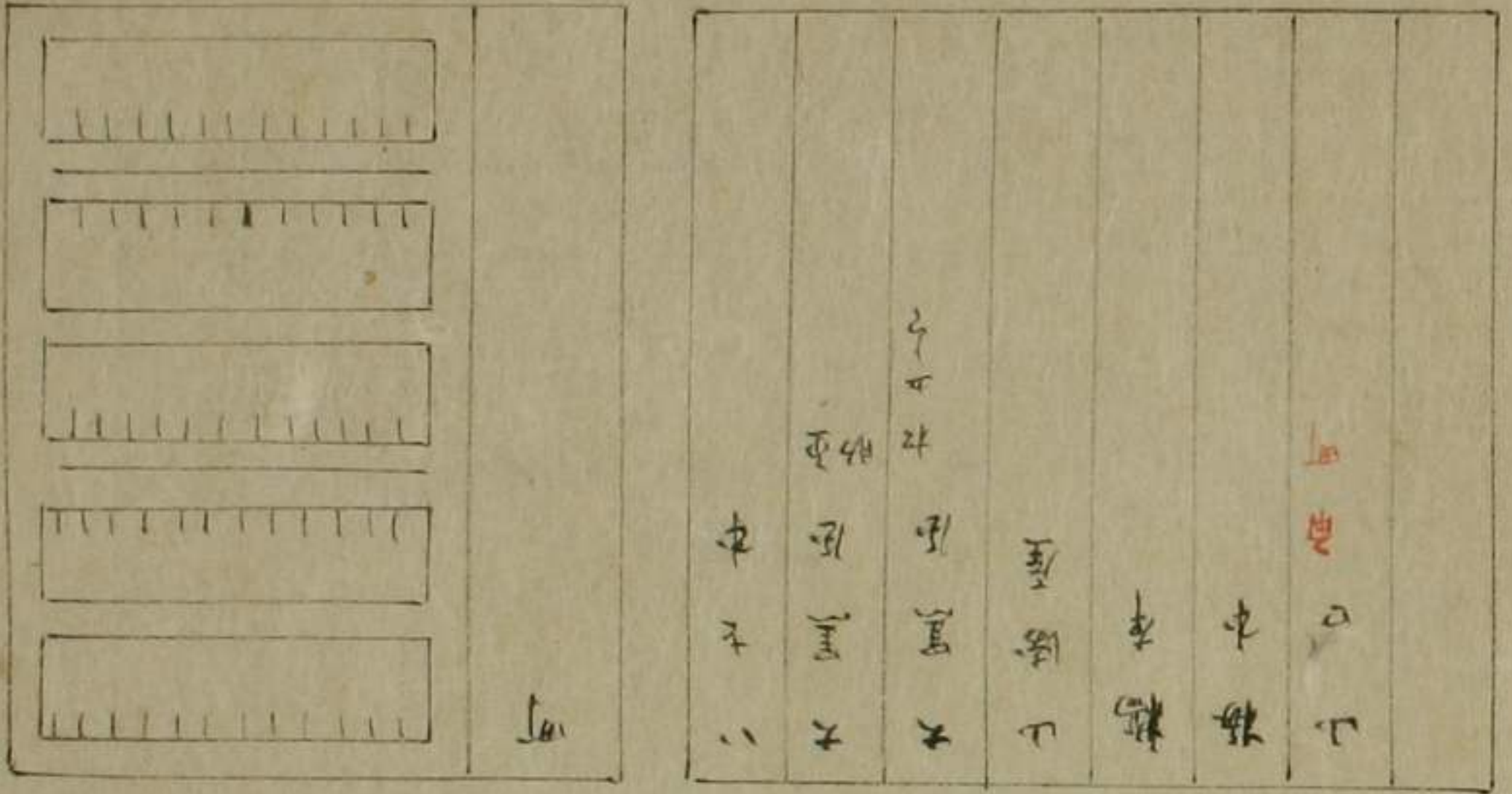
同五五

天蓮寺

谷中善先手板



谷中三浦後板



とて五十有五年のむう〜なるともふつてハ岐
橋の結構之ひそ〜つ〜千々知年のひ〜ハ雲
泥の遠水也

里老曰 根津徳門の赤土大下水と宮永町つ市町
西町の界〜を射〜ハ宮永町の方も互〜
表町通〜本村匠〜宮永一分の金〜也
とあり又日下ハ天保九年三月切也とと具立
と〜程〜同年九月廢〜ハ門前町の方
殊〜惣易〜引〜大〜
于波毎ハ家代草藤〜高村ハ凡ハ戸銭見

世中注冠〜坊田中〜
一刻なり

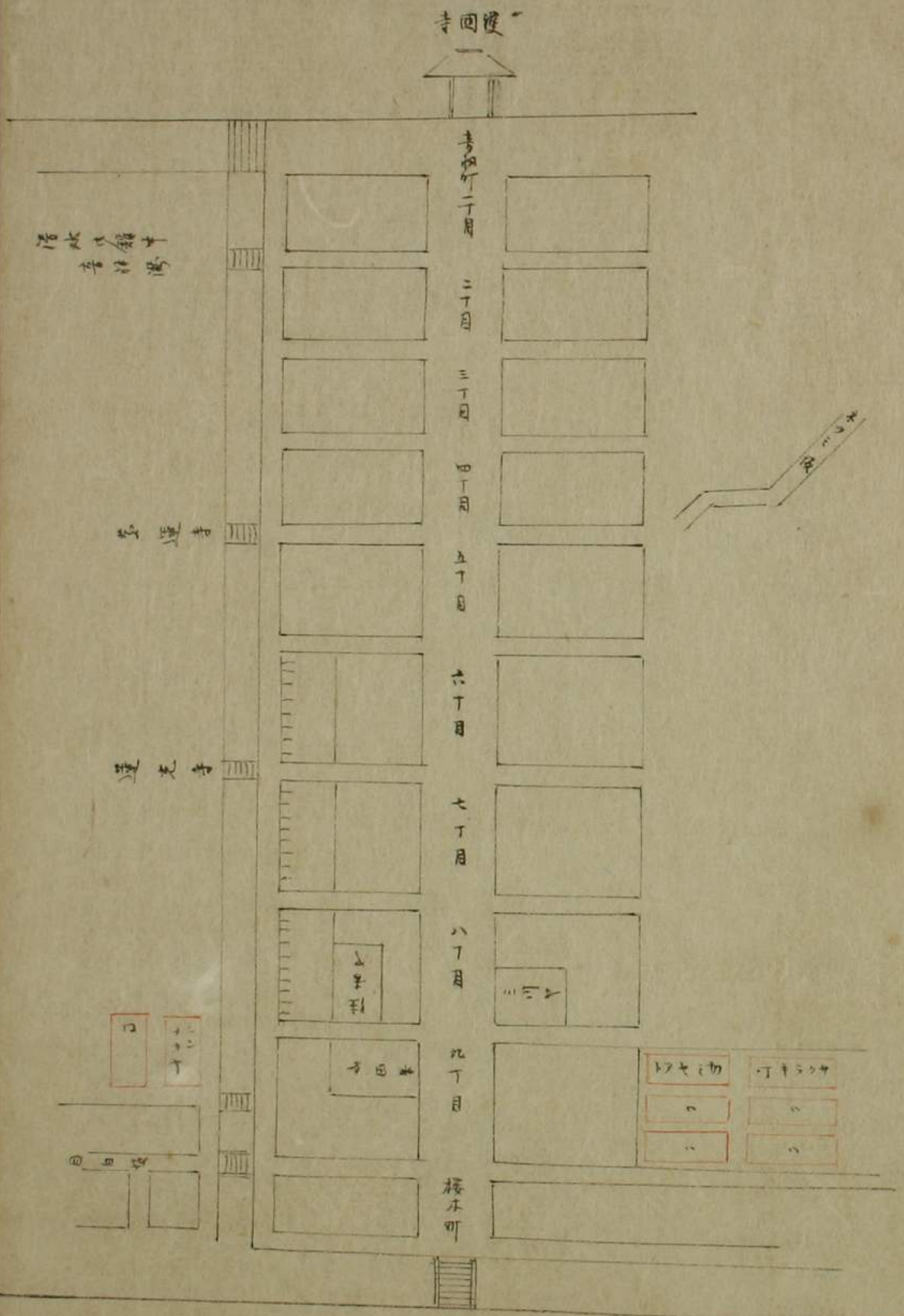
音羽

音羽町 往右ハ一丁目〜九丁目〜
往左ハ一丁目〜八丁目〜
目下西町〜
下生音羽町 六世津土鑿の凡衣袋大極三同意小
敷〜人〜下島〜
の凡部御持の存の〜カノヤ中島ヤサド
ヤ是ホナマ

名二鑑

音羽鑑

高九河忘の鑑蓋



小落し上と又上くといふ雲上印
 江戸須礼寺とて音解小松上初鹿音解
 能治江戸各不 此方力持上音解と花の里 安
 里 碑解 色里三十三 九 丸下山音解寺 本号
 色著上乃揚教也音 拍子木の音解と音解ハ
 中四つと智籠上活とてつて花とて 由初
 穂銀二泉上口 評判地土士 音相名家音集 年宝曆
 中 音解町と云下中上人論中 今年又慈昌と別
 け下人物静なり始てくよとて村煙筒と云
 了遠下上生と國法と云てて上 年芥子白け不

の町ハ 桂昌院極小の寺公勤らと一々中方の
持領居安多し千石と町名小ぢけり寺村寺柳桜
亦ハ一寺と一と云へり

音羽裏町

音羽町七十月八丁月西裏通ハ切又也

紫麻子 上生音羽裏町同子ヨリこの浄土髪衣裳

俱小大見世とす浄土去り一人如く及もけモレ

音羽荒坂

紫麻子 下品音羽荒坂ノヨリ此浄土ヨリて浄土

一 吾呂町小敷と引も 早芥子曰 寛二町十見也

寛政中廢也

新長屋

里老曰 音羽町九十月西裏下水向小二棟家能天

保七年出来と一が浄土見世と第りてその

寺 齋也

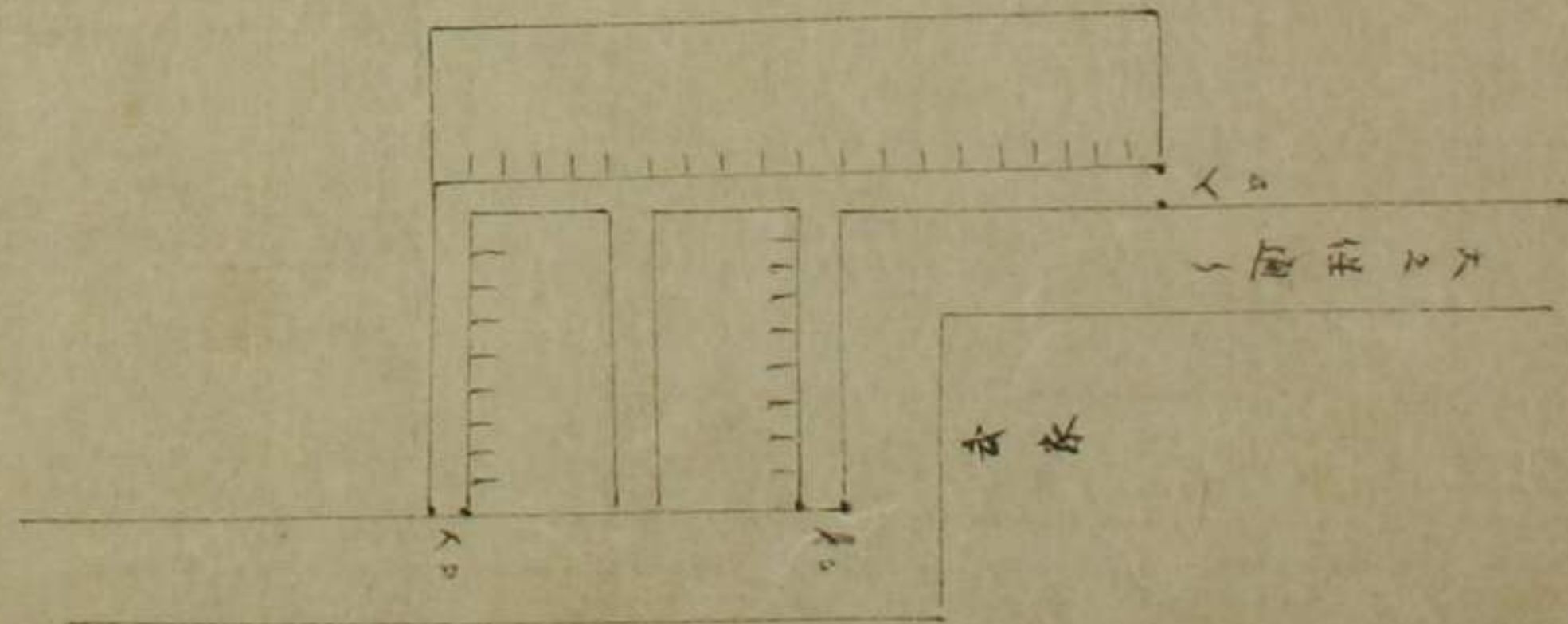
桜木町

里老曰 天保十二年武家方中間口論小因て切見

世廢也

ちく石

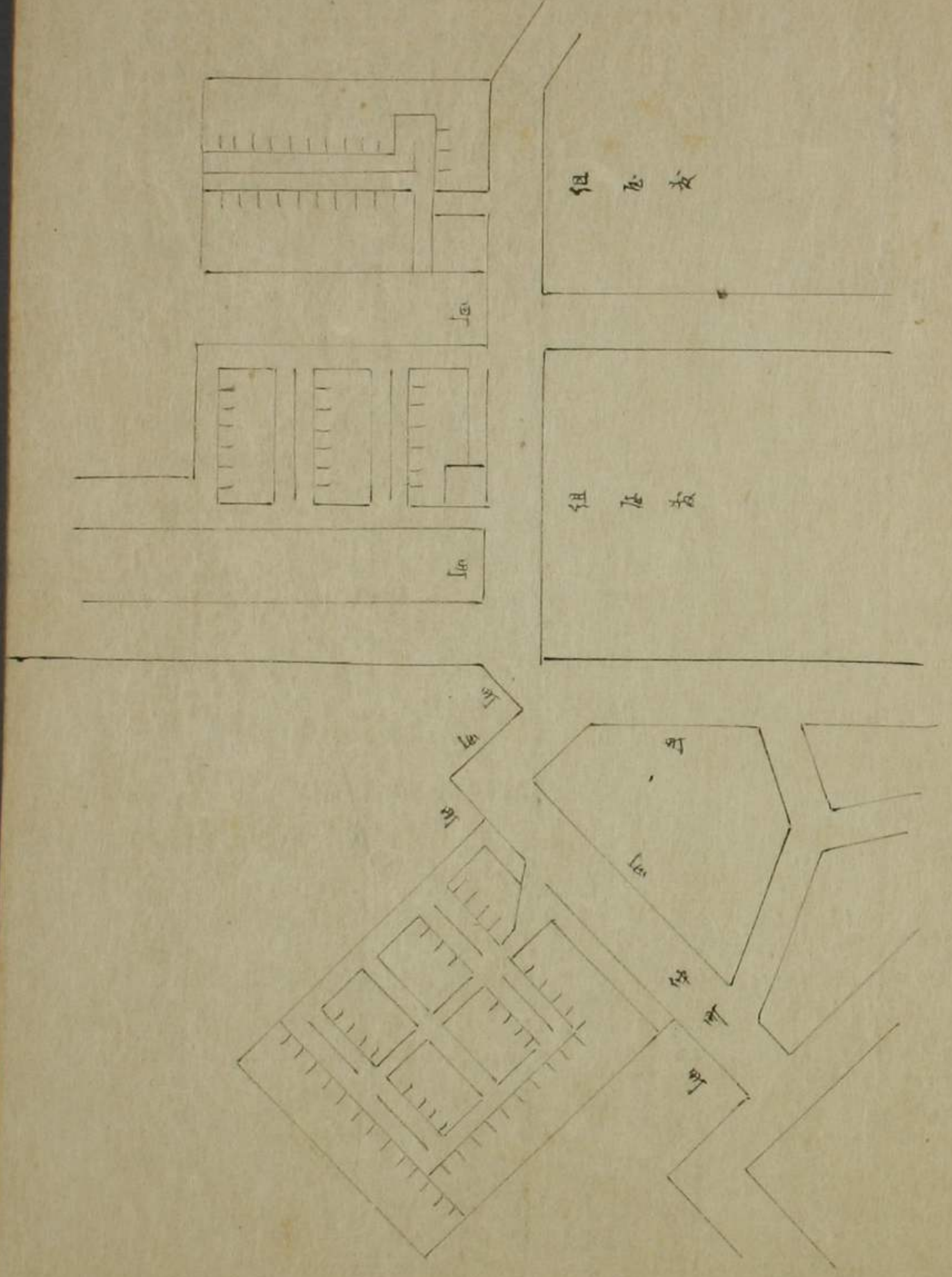
市谷、町 紫麻子 下品 市谷ちく石
ラヨ半 此淨土ハ髪衣類人うと較
格より引くこと甚一日用勿沙
但しは石所より物且と
市谷中往還ありていりやう日照
りともかく事水一むりりち魚小
ちく石の名ありて 色里三十三
市谷山石寺ありて五十石ハ塩の
北藏寺ちく石と氷の涌むる石



間の方へそまれば、鉄のり、六 梳燭代百銅

較々橋

較河橋石町 紫麻子 中品 四谷較橋 ラヨ半 此淨土
髪衣類衣よハ能うて一がとハ能分るう一引く
りよ甚しハ所より廿四本の切り賣出し所溜生
込横子場植河原加賀原四谷横橋番若下切通一
来女原外横四谷横橋番比立橋と憚りて較
橋の場ありて 名二鑑 較々橋 長さ五十間あり
と、東の河下河 其芥子 日ハ所元禄十五年五



但 庭 女

但 庭 女

土
間

土
間

土
間

土
間

土
間

月吉原上書小見

色里三十三

赤坂山竹林寺

本尊勤りつ

らいの聖了 待てしまぬ四六家巻の床の番廻

一枕ハ謀りしり 南園雜話 安永二年ハ牛連也

南 今按 南岳川 新地 今按 乙田の五丁目

一 今按 赤坂田町五丁目 行くし向ふし調子か

今 遊里花 上 今按 赤坂田

此 希 世麻子 土品 赤坂田

町 今按 二日 浄土髮衣裳俱小六回 筑日不但

在 色里三十三 赤坂山

田下山 本尊客先へ海取迹如來 サア赤坂

藤下帯と解き肌肌 一重と ま ま ま ま

概燭代百文 天和三年三月去

原上書小は 又 又 又 又

市兵工所

麻布今井寺町 契園築遊女方角番方未市兵工所

庫子 上下品麻布市兵工所 以淨土大極六間

堀日新町より引く石二艘市兵工塚

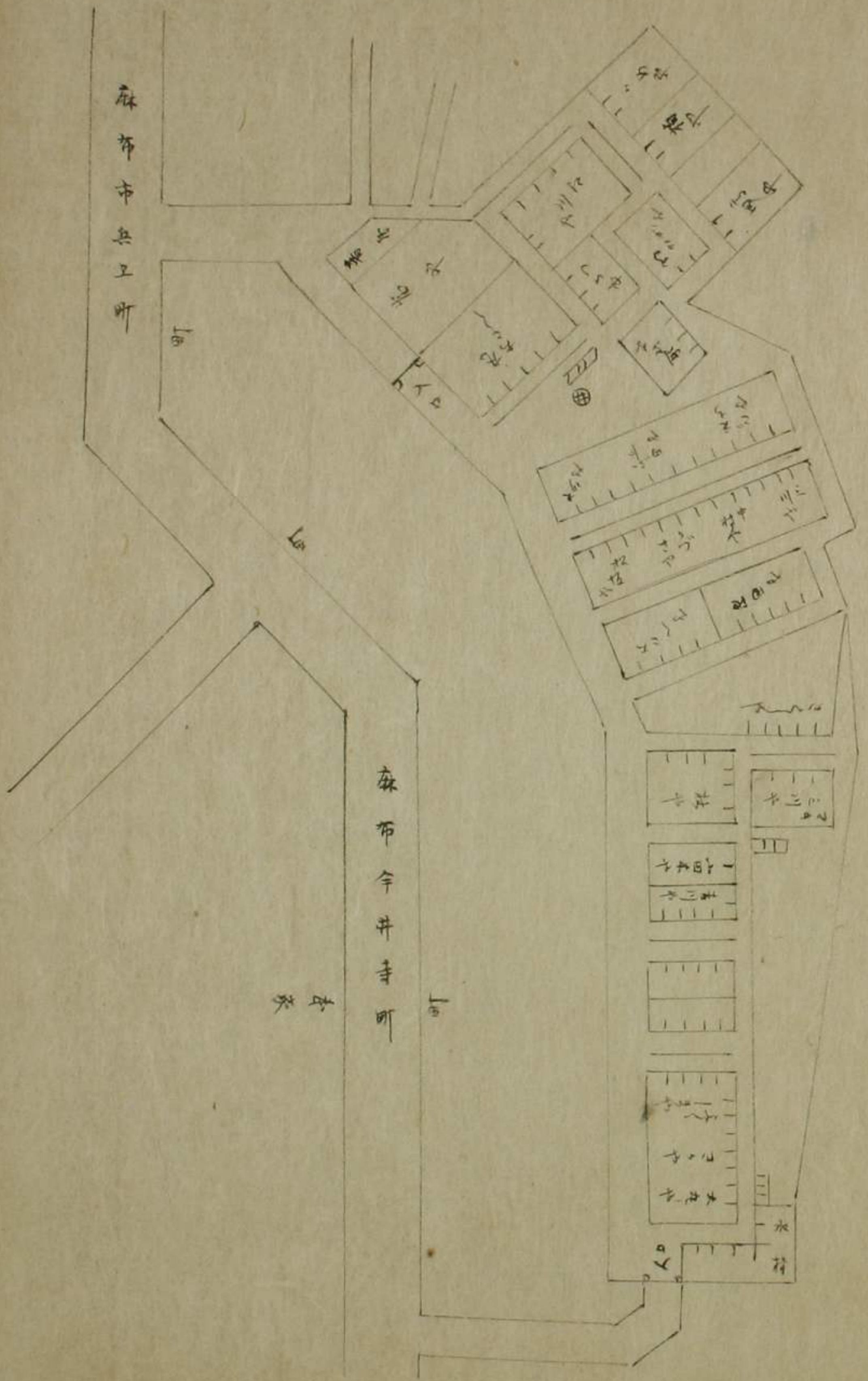
印の本五十本ありて云ふ竹並の本より初より

色里三十三番十五市兵工山麻布市由子新造突

出の号縁 銃炮と云ふも市兵工所

そつてるとい玉柄をて 腕燭代百文 寺芥子

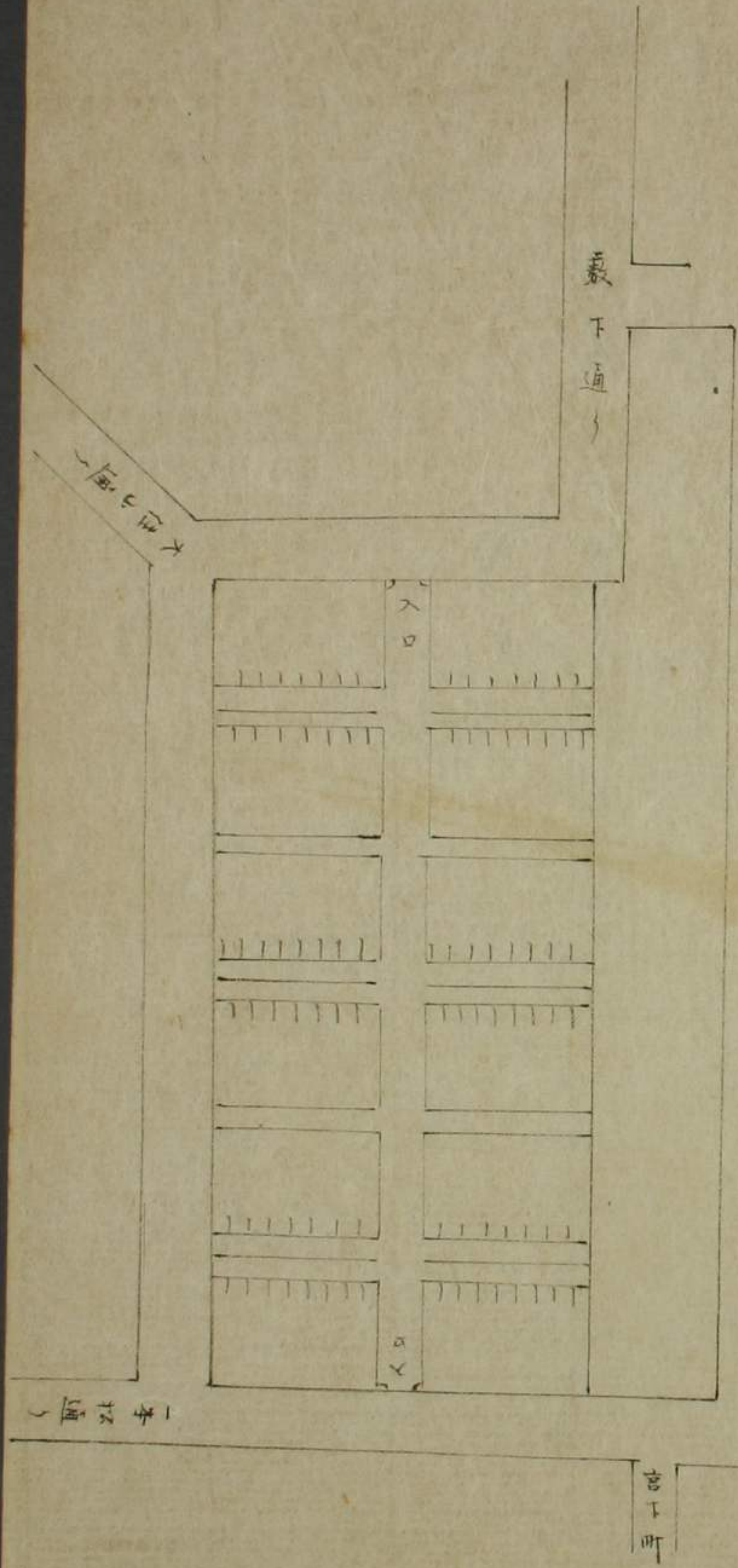
曰 天和二年九月去原上書小又へ由る



藪下

遠近懐宝 麻布宮村町日所宗英匠敷日三貞森庄
 敷此三ヶ所里佐藪下と云 契國美遊祈方角圓
 藪下 甚好此 藪下 五ノ文 紫席子 中品 麻布藪下
 六 此浄土三田新地小影を知らず証状 日書 中品
 麻布藪下 下ヨシ 此浄土誓の凡衣裳人うと証
 一 ぎびしき時りく 名所鑑 藪下村 満朝寺 四
 六 菩薩安置喜小切通 凡聞天之時 延喜三
 年八月十一日麻布古撰後指を而小喜女あり八
 人程石捕りれに中けんと云女十八歳とす

川竹の敷もろくぬ勤りてくき言のあふつ
 ときまてり新く証しと云ん

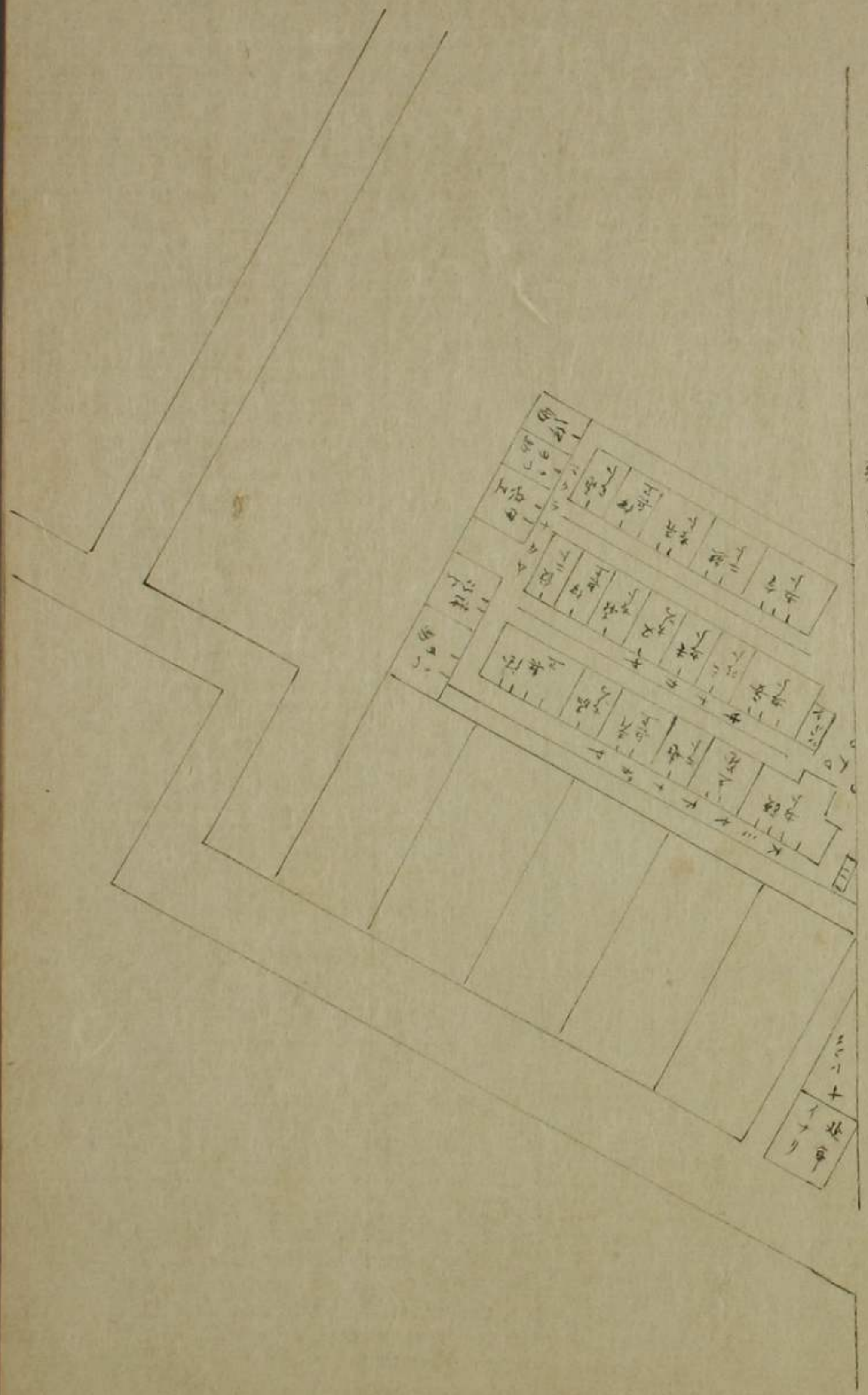


里老曰昔ハ銭之也ト有リガ其時ハ錢ハ切一ト切見
 也ト云リ其錢之ハ天保八年四月其表中間ハ論
 可ト云リ因テ廢ト

三角

芝壽命洗上ヶ所發 芝壽子 下島 三田新地 六世澤
 土發の丸衣裳大概者坂ノ形ト云リ一話儀ト云リ
 ナ 口書 下島 三田新地 下島 此澤土發衣裳俱
 小尾山小口 引子ハ女 色里三十三新 十七三
 田山三角ト云リ 本年以前立の字儀 四角水

芝田町一丁目 西ウテ通



帶ハ借了物三角へあり一疋の雪之着い流
は初穂銀二条 **遊里花** 上上士 三田新地 行毒
人、一寸覗いて 三井寺 **豊芥子** 曰此所至永五
年五月吉原上書よ又へあり

契園菜 遊女方角園 三田 甚好記 三田 五十一文 **名**
二鑑 三田 五百坪ありあり 苗一本持しよ五
十本つりし為えしとあり **江戸須礼** 三四の丁今
別ハ秋路へあり是 三田 **今按** 是亦三田なり
云へしハ日册町新地行是とありし未詳

元文五年詔令 於町々致遊女高賣以義從前々而
俾止之者度々相觸以不令以不相止不届至格以
此以後自町奉行不口公相廻又ハ新吉原者共ニ
天為改隠遊女致高賣以一件者百捕逐吟味仕
至可申付系此旨町中可觸知者也 閏七月

